

～古賀院長エッセイ～

次代への風



好きと得意、どっちが先？

先月は何事にも感謝、とは言ってみましたものの、実際はよほど出来た方でないと、嫌なことやうまくいかなかった事については、なかなか感謝が向かないのが現実でしょう。では日々のこのようなことにはどう対処していけばいいのでしょうか。私もいろいろと悩まされますが、その都度考え、対応してきました。

二度あることは三度あるにならないように、あれこれ考え、試みますが、様々な別の原因、要因が絡み、似たような結果になることもあります。それでもめげずにやっていると、一つの法則のようなものが見つかり解決していきます。好きなことをやりなさい、楽しみなさいなどの言葉がよく聞かれますが、現実には嫌いなものや、苦手なことがたくさんあります。これらは避けることはできず、必ず遭遇します。人は向き不向きがありますので、最初から周りより上手にやれて、それが好き、ということはありません。しかしそれでもプロになると同じような人達の集団ですから、とても好きとか楽しむなどの余裕はなく、競争の中で苦しむのです。

何事も理想と現実があります。医師は皆、人の苦しみを和らげ、やりがいのある、自分の好きな事だと思ってスタートします。しかしそんなに甘くないのが病気との闘いです。私は研究よりは臨床が向いている、内科より外科に向くと思ってこの道に入りましたが、それからが苦しいことの連続でした。しかし今はこの道しがなく、そしてこれが何よりの道になっています。好きだから続けられたのではなく、上達していったから満足な結果が多くなり、好きになるという図式です。好き嫌い、快不快などの主観をできるだけ横に置き、客観的に自分や物事を見つめ、努力、工夫、がまんすることが必要だと思えます。

では上達し、得意とする技（得手）を作るにはどうするか、というと、気楽にできる事に費やす時間（テレビなど）を減らし、その分を不得手な事に回す、つまりたくさん取り組むという単純なことです。何事も時間をかければ得意になっていきます。ただし間違ったやり方では、一生懸命やり過ぎて心身を壊し、良い結果も出ないということもありますので、教わることも大切です。得意になれば必然的に好きにもなり、更に磨きがかかり、という好循環になります。「得手に帆を揚げ」という言葉があり、いつか大きなチャンスにも恵まれることになります。かのナポレオンは3時間しか寝なかったと言われますが、幼年学校時代から学業に専念し、数学が得意となり戦術の計算に応用し連戦連勝で、皇帝にまで登りつめた努力の人です。

十月は実りの季節、秋晴れの中で心身を伸びやかにできる最高の月です。一つでもいいから何か不得手なことにさりげなく取り組んでみるのも実りになると思います。



お薦めの本

「ナポレオン」

佐藤賢一 著

今年にはナポレオン生誕 250 周年です。
ナポレオンの生い立ちからの小説です。
なぜフランス革命後に皇帝になったのか、
などがわかる本です。



院長語録

毎朝の朝礼での一訓をご紹介します。

身の回りに起こり得る事象が、想定外だったと言わずに済むように
日頃から想定内に収める意識と準備をしておこう。